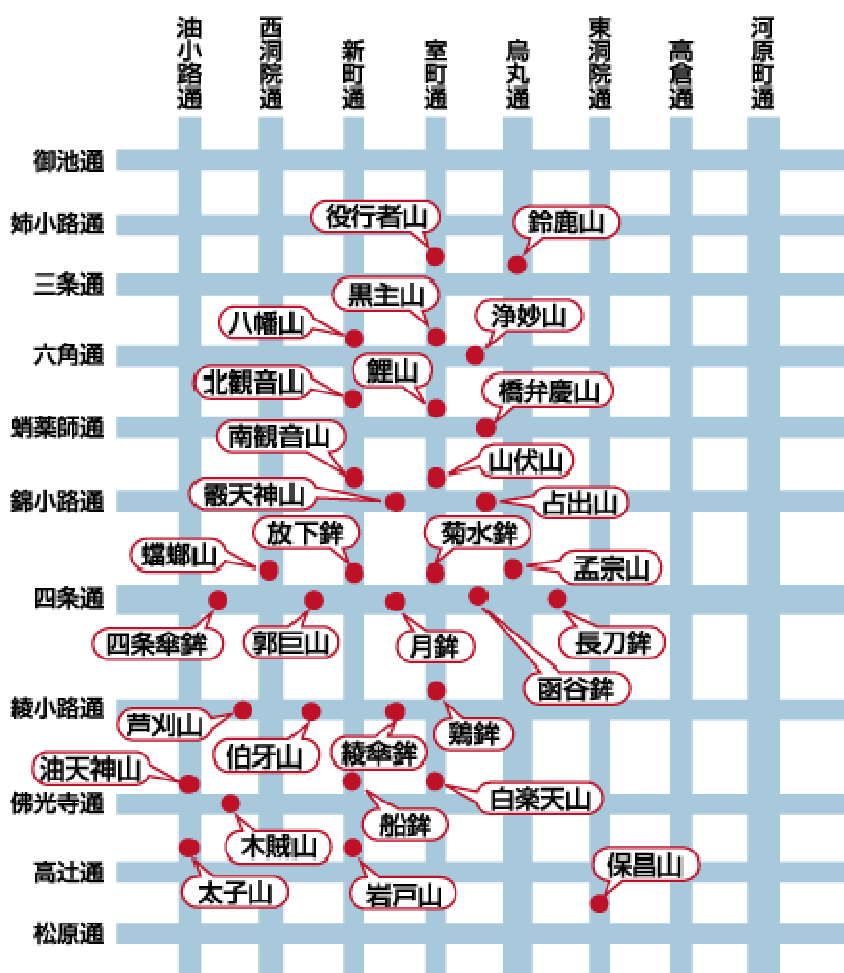


祇園祭りの見どころ

毎年7月12日頃から鉾町(北は三条通り～南は五条通り、東は烏丸通り～西は油小路通り)では道路わきに鉾や山が建てられます。鉾とは車輪の付いた大型の飾り車で、長刀(なぎなた)鉾、函谷(かんこ)鉾、月鉾、鶏鉾、放下(すはま)鉾、菊水鉾、船鉾と現在は7台の鉾があります。2年後には、1864年の禁門(蛤御門)の変でほぼ焼失した大船鉾が復活するそうです。山とは小型の飾り屋台で、車が無く担ぎ棒が備えられたもの(例外として車輪を備えた大型の山も3台ありますが)で、数えてみると25台ありました。鉾には毎晩、十数人のゆかた姿の囃子方が乗り込み、笛方2名、太鼓方2名、鉦(かね)方8～10名が祇園囃子を奏で祭り情緒が盛り上がってきます。祇園囃子は我が国各地の笛、太鼓、鉦の元気の良い祭り囃子とは全く異なり、実に優雅で美しい調べで鉾町を包んでくれます。山鉾巡行の17日の前夜までの約5日間、鉾町は人出で賑わいます。



子供の頃の住まいが鉾町の近くでしたので、毎年親に連れられて宵山(山鉾が出揃った鉾町の宵)に出かけたものです。その頃は夜店(露店)で、キリギリス、蛍、カブト虫やクワガタ虫を、それぞれの地元から大きな籠に入れて持って来て売っており、それを買ってもらうのが楽しみでした。キリギリスは竹で作った虫籠に入れてくれます。ある時キリギリスの代わりにクツムシを買ってもらったのですが、一晩中ガチャガチャとうるさく鳴き続けたのを覚えています。今では残念ながら夜店で見ることはありません。

長じての宵山での楽しみは、祇園囃子を聞きながら鉾や山に安置するご神体（人形）を拝む（見物する）ことです。巡行の際ご神体は山鉾に載せられるのですが、宵山では山鉾が建てられている近くの町屋の中に安置されています。一晩でとても全部の山鉾のご神体を見ることは不可能ですが、拝観を楽しみながらの宵山散策をしていただきたいと思いますし、私が好きでぜひ見ていただきたいご神体の祭られている山鉾9台を紹介します。南から北への道順に沿って山鉾ご神体を列記すると、

保昌山：平井保昌（ひらいほうしょう）

岩戸山：天照大神、手力男尊（たじからおのみこと）

船鉾：神功皇后、住吉明神、鹿島明神、安曇磯良（あづみのいそら、海神）

螭螂山（とうろうやま）：動くカマキリ

占出山（うらでやま）：神功皇后

南観音山：楊柳観音、善財童子

橋弁慶山：牛若丸、武蔵坊弁慶

浄妙山：筒井浄妙（つついのじょうみょう）、一来法師（いちらいほうし）

役行者山：役行者、一言主神（ひとことぬしのかみ）、葛城女神

となります。

先ず地下鉄の四条駅から南（京都駅）方向に歩いて5分くらい、烏丸通りの東、2筋目の東洞院通り松原上る（松原通りを北へ）に、ぽつんと1台だけという感じで保昌山が立っています。平井保昌は藤原道長・頼通父子の家司を務め、武勇に秀で「道長四天王」の一人でありました。のちに道長のすすめもあり女流歌人和泉式部と結婚しています。その保昌が恋人にせがまれて紫宸殿の梅花を手折っています。北面の武士に見つけられ、矢が頭をかすったと伝えられています。美しい鎧姿の保昌の立ち姿がご神体です。この保昌山だけが鉾町から東南にはずれたところに立っているので、ここへ行くのは後回しにした方がよいかも知れません。

保昌山からもと来た道を西北へ、烏丸通りを西に渡って、2筋目、新町通り（南北）に面して岩戸山が立っています。近くの町屋の中にご神体が置かれています。天照大神が天の岩戸の中にお隠れになり、天鈿女命（あめのうずめのみこと）が裸踊りを始め、大神が岩戸を少し開けて覗いてみたところを、手力男尊が大力で岩戸を開けたという神話の登場人物です。大神の美しい姿、手力男尊の男性的な姿が魅力的です。

岩戸山から北を見ればすぐ近く、この新町通りに船鉾が立っています。船鉾は古事記に書かれている神功皇后が新羅征伐（全く根拠薄弱の古事記の作り話）のために出陣する船をかたどっています。皇后は鎧に身をかためた立派なお姿です。これを守護する住吉明神、鹿島明神、安曇磯良（海神）はそれぞれに恐ろしげな良い顔をしています。安曇磯良は竜宮の満干珠（みちひるたま：潮の干満を自由にコントロールできる宝珠）を手を持っています。鹿島明神が持っている長刀（なぎなた）は和泉守真海（1661～1672）作の逸物です。この船鉾と後述の南観音山は拝観料を取りますが、鉾の上にもあげてくれます。その他の山のご祭神は自由に拝観できます。

船鉾から北へ四条通りを横切って、四条通り沿いに西へ西洞院通り（南北）まで歩いて10分、西洞院通りを北に行ったところに、蠶螂山（とうろうやま）があります。1985年に109年振りに復活されたもので、他の山鉾とは様子が違った見せもの的な、緑の色も美しい大きなカマキリが山の上で動いています。楽しい見ものです。

四条通りのひとつ北が錦小路（東西）です。蠶螂山から東へ歩いて10分、通りの南側に占出山（うらでやま）が立っています。神功皇后が九州肥前の松浦川で鮎を釣って新羅征伐の吉祥を占った場面で、釣竿を持った神功の姿は神々しく、その時子供（応神天皇）を孕んでいたことから安産の守り神として京都のご婦人はお参りします。近所の子供たちがご神体の周りに集まって「安産のお守りは・・・」と大きな声で歌っているので、近くまで来ればその歌声でご神体安置の場所がすぐわかります。

占出山の立つ錦小路を西へ歩き、2筋目、新町通り（南北）を右に折れたところに南観音山が立っています。ここは船鉾と同様拝観料を取りますが、2階に楊柳観音とお付きの善財童子が安置され、またこの山は大きくて中で祇園囃子を演奏しているので、囃子の合間に山の中に入ることができます。この観音様は「あばれ観音」と言って、7月17日の山鉾巡行の無事を祈って、16日の深夜に台座に乗せられて近辺を走り回ること知られています。この夜には大勢の人が見物に集まります。数年後には17日巡行の先の祭り（元通り（50年振り）に分けられるとのこと）と24日巡行の後の祭り（この度の推奨山鉾9台のうち3台が後祭り）の23日深夜に見に行けば、「あばれ観音」を少しはのんびりと楽しめるのではないかと考えていますが、さて、それまで元気で居られるかどうかは？です。

南観音山から北へ、つぎの東西の道路が蛸薬師通りです。この通りを東へ行くと左側に橋弁慶山があります。ここは町屋の二階が開け放たれていて、五条橋の上で戦っている牛若丸と弁慶が見えます。下の道から見上げるので距離があり、細部にわたっての観賞ができないのが残念ですが、牛若丸は橋の擬宝珠（ぎぼし）の上に高下駄を履いて片足で乗っています。高下駄の前歯だけで橋の擬宝珠に牛若の人形が支えられているのです。多くの山鉾の中でも屈指の古いものだそうです。

蛸薬師通りの一つ北の六角通り（東西）南側に浄妙山があります。これは平家の横暴に憤慨して旗揚げした源三位頼政（げんざんみよりまさ）軍と平家軍との戦い、宇治川合戦の一場面です。平家方三井寺の僧兵、筒井浄妙が宇治橋を渡って一番乗りをしようとするところを、同じ山法師の一来法師がそうはさせじと浄妙の頭上を飛び越える瞬間です。浄妙の鎧は室町時代のもので重文だそうです。迫力のある場面で、数本の矢が刺さっている宇治橋の上での二人、山鉾の中でも随一の名作です。宵山に出かけたら毎回私はここを訪ねます。

蛸薬師通りから北へ2筋目、三条通り(東西)室町の北に役行者山が立っています。役行者、一言主神(ひとことぬしのかみ)、葛城女神の3体が見られます。それぞれが良い顔をしています。実はこの3体の関係が定かではないのですが、行者が大峰山と葛城山に橋を架けようとして鬼に命じたとの伝説によるものでないかと言われています。制作時の由緒もわからない程に古いものということです。

以上の9か所のご神体を一晚で見るのはとても無理です。また一日かけて見たとしても結局、何が何だかこんがらがって頭の中が混乱するだけです。ですから先ずは4、5か所を訪ねて、残りは次の機会に訪ねるのが良かろうと思います。銚町の道路はいずれも一方通行になっていますが、宵山の数日間はその道も車は通りませんが、人波が一方通行になるように交通整理されていますので、次の山銚へ行こうと思っても道路をうまく選ばないとたどり着けません。銚町の地図が山銚のちまきやお守りの売り場で手に入りますので、それを見ながら道を選ぶ必要があります。

祇園祭りの楽しみは宵山見物と7月17日の山銚巡行見物でしょうが、巡行の方はカンカン照りの梅雨明けの暑さの中で、ゆっくり長々と時間をかけての32台の山銚の巡行は、初めは珍しくても、結構遠くから眺めるのでご神体もよく見えず、すぐにしんどくなります。私にとって宵山は情緒があって、祇園囃子の優雅な音色に包まれ、ご神体の拝観も楽しく、今までに何度出かけたことでしょうか。ただ、15、16日は四条通りも歩行者天国になりますが、とにかくものすごい人出で敬遠します。13日には山銚が建ち並ぶので、13日、14日は比較的人出も少なく、お出かけになることをおすすめ致します。

(昭35・色染 松岡謙一郎)